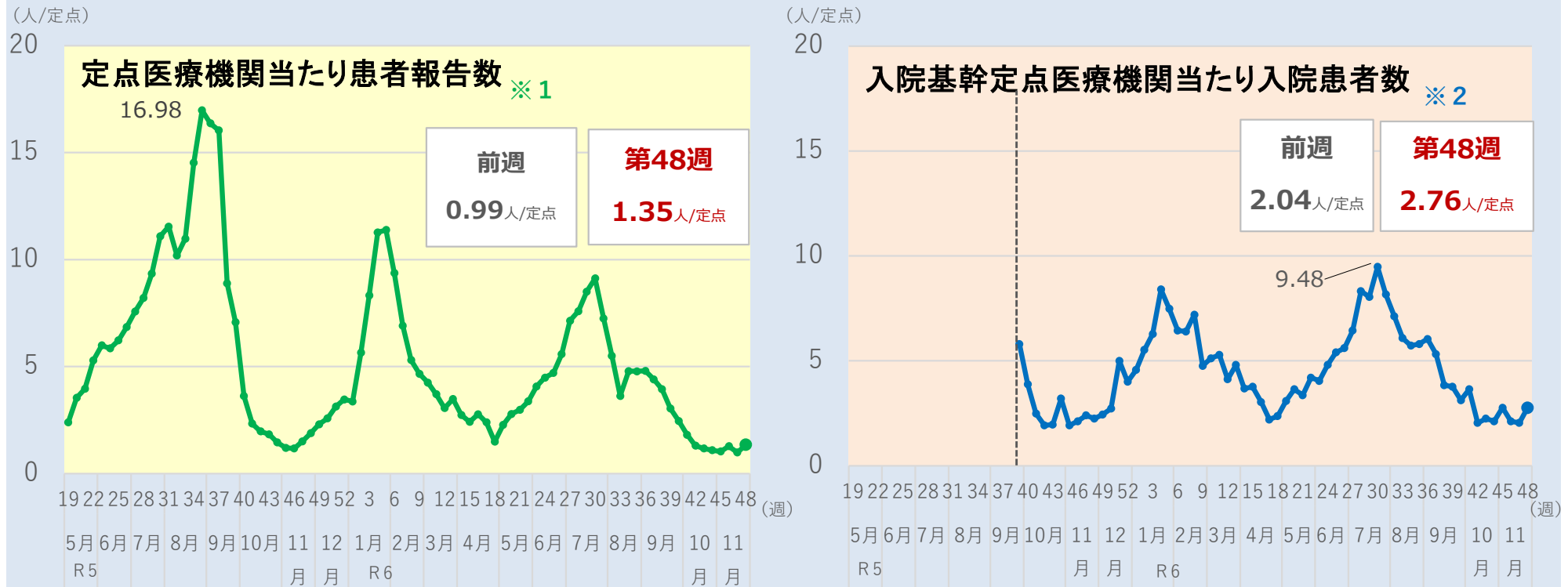


# 新型コロナウイルス感染症…五類感染症～冬に向けて注意が必要な感染症～

資料1

## 東京都の状況（第48週：11月25日～12月1日）



※1 定点医療機関からの報告に基づく値（当該週の報告患者数／報告医療機関数）

※2 入院基幹定点医療機関からの報告に基づく値（当該週の入院患者数／報告医療機関数）（注）令和5年第39週から集計開始

### これまでの傾向

- 例年、夏季と冬季に患者報告数が増加。昨冬は、1月下旬から2月上旬にかけてピーク

### 現在の状況

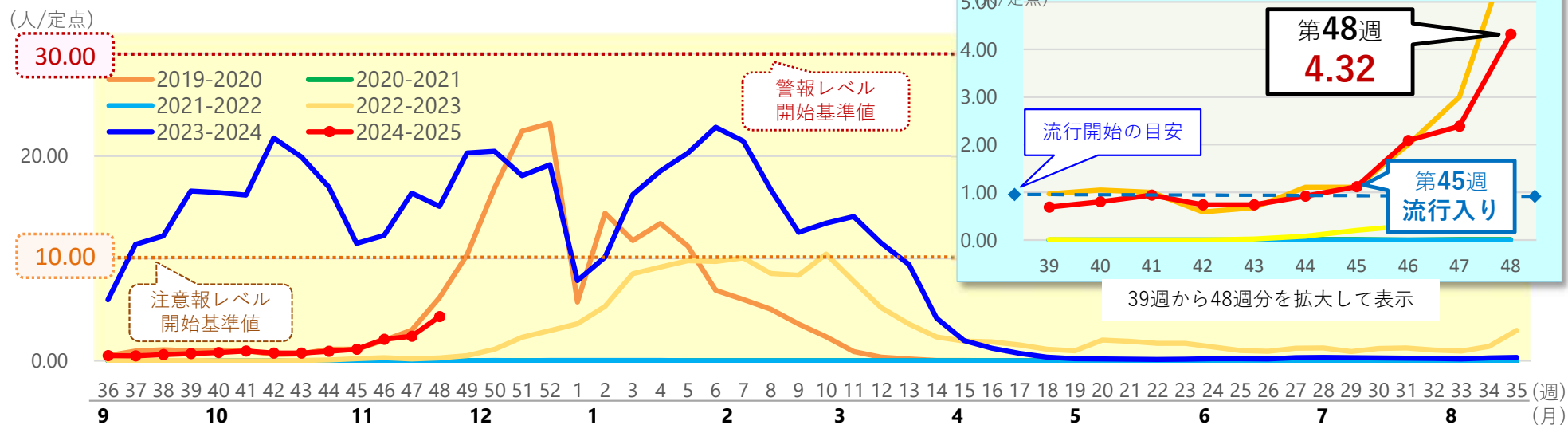
- 定点医療機関当たり患者報告数及び入院基幹定点医療機関当たり入院患者数は、明らかな上昇傾向が見られておらず、今後の動向に注意が必要である。

# インフルエンザ - 五類感染症 -

流行入り

～ 冬に向けて注意が必要な感染症 ～

## 都内定点医療機関あたりの患者報告数



## 流行状況

- 昨シーズンは9月に注意報基準(10.0人/定点)に達する
- 今シーズンは第45週(11月4日から10日まで)に定点当たり1.0人を超え、**流行入り**

## 症状等

「インフルエンザウイルス」による呼吸器感染症(飛沫感染、接触感染)

- 38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等の症状が比較的急速に現れる
- のどの痛み、鼻汁、せき等の症状も見られる
- 小児はまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している方は肺炎を伴う等、重症化することがある

# マイコプラズマ肺炎 - 五類感染症 -

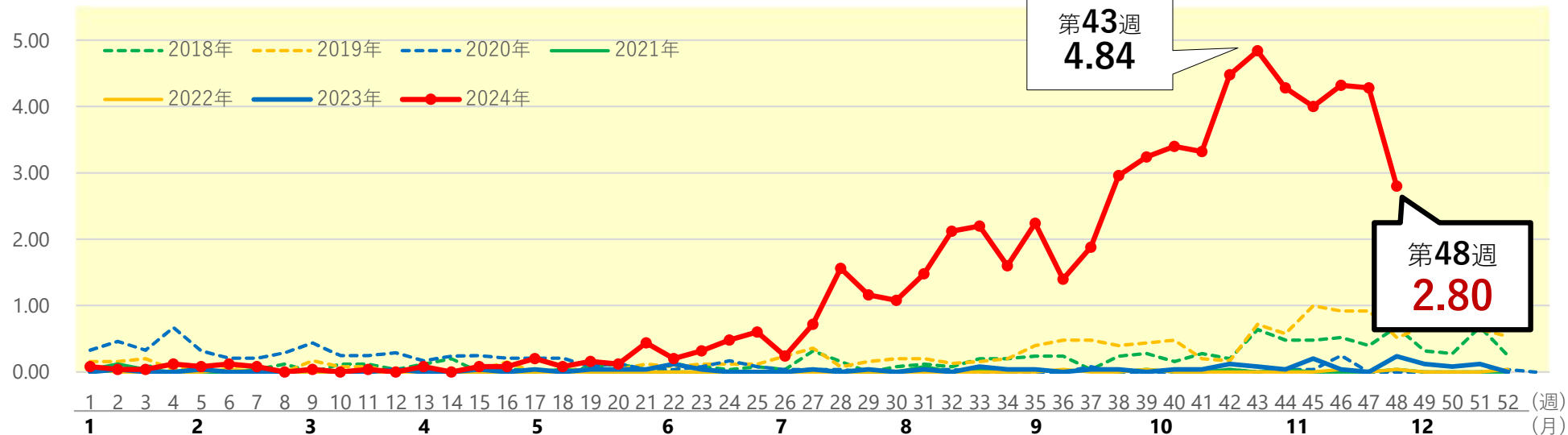
～ 冬に向けて注意が必要な感染症 ～

子供を中心に流行する感染症

## 都内定点医療機関あたりの患者報告数

(人/定点)

2024年のデータは第48週(11月25日～12月1日)まで



## 流行状況

- 以前は4年周期で流行していたが、コロナ禍では報告が少ない状況が続いていた
- 今年は夏頃から感染が拡大し、第43週時点で感染症法施行以来で**最多**となる定点あたり**4.84人**を記録

## 症状等

「マイコプラズマ・ニューモニエ」細菌による呼吸器感染症(飛沫感染、接触感染)

- **発熱**や全身の**倦怠感(だるさ)**、**頭痛**、**せき**などの症状。せきは3～4週間続く
- まれに中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの**合併症**を併発

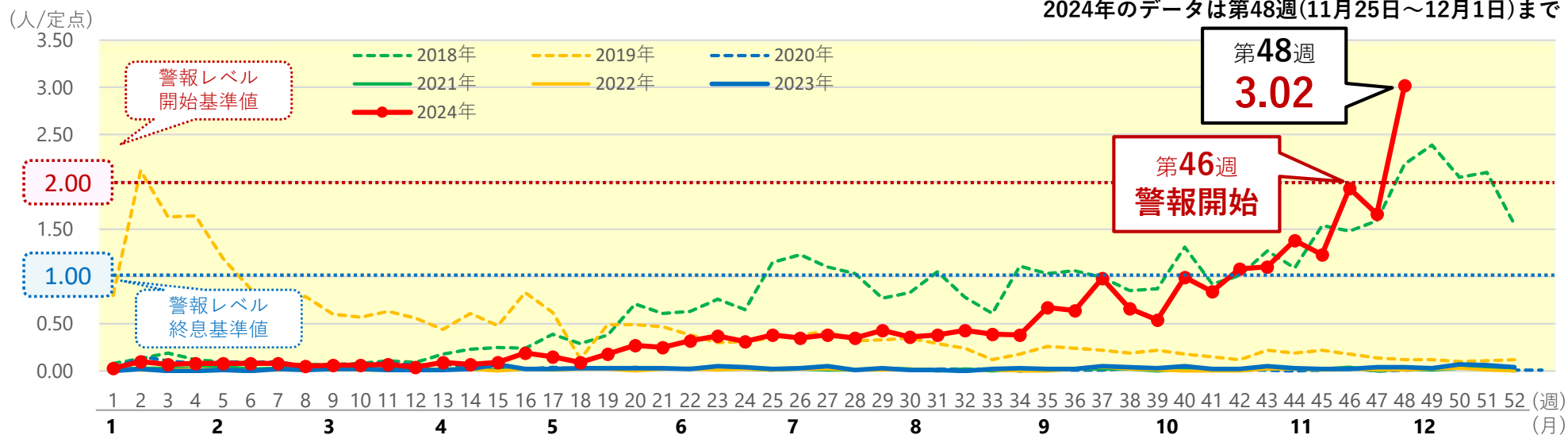
# 伝染性紅斑 - 五類感染症 -

警報レベル

～ 冬に向けて注意が必要な感染症 ～

子供を中心に流行する感染症

## 都内定点医療機関あたりの患者報告数



## 流行状況

- 今年は夏頃から報告数が徐々に増え、**第46週**に6年ぶりに**警報基準に達する** (警報レベルにある都内保健所の管内人口が、都全体の**57.75%**に達し、警報基準(30%)を超過)
- 最新の第48週は定点当たり**3.02人**で**過去最多** (感染症法施行以来)

## 症状等

「ヒトパルボウイルスB19」を原因とする感染症(飛沫感染、接触感染)

- **両頬に紅い発疹**、体や手・足に網目状の発疹がみられ、1週間程度で消失
- 発疹が出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられることが多い
- **妊娠中**に感染した場合、胎児の異常や流産が生じることがある

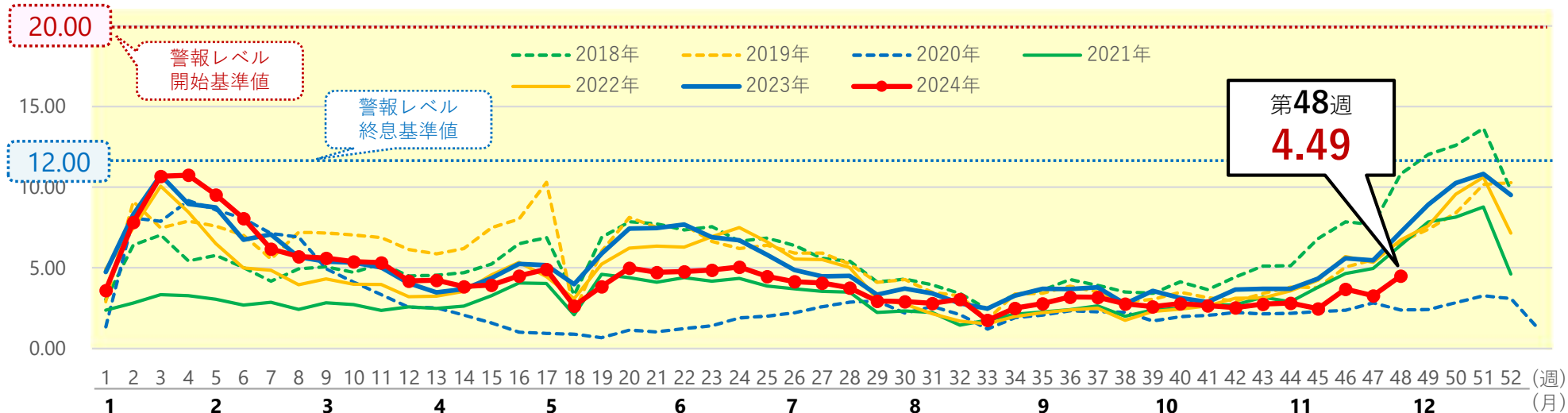
# 感染性胃腸炎 - 五類感染症 -

～ 冬に向けて注意が必要な感染症 ～

## 都内定点医療機関あたりの患者報告数

(人/定点)

2024年のデータは第48週(11月25日～12月1日)まで



## 流行状況

- 毎年秋から冬にかけて流行
- 今年は第48週時点で定点あたり4.49人(ほぼ平年並み)

## 症状等

細菌やウイルス(ノロウイルス等)などの病原体による感染症(接触感染、経口感染)

- ノロウイルスによる胃腸炎では、吐き気、おう吐、下痢、発熱、腹痛などの症状
- 乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがある

# 感染防止対策

～ 冬に向けて注意が必要な感染症 ～

## 新型コロナウイルス・インフルエンザ・子供を中心に流行する感染症

- 換気、手洗い、咳エチケットなどの基本的な感染防止対策を
- 場面に応じたマスクの着用を
- 新型コロナ、インフルは、高齢者等はワクチン接種の検討を

## 感染性胃腸炎

### 予防のポイント

- カキなどの二枚貝は中心部まで十分に加熱  
(湯通し程度の加熱では、ウイルスの感染力は失われない)
- 調理に使用した器具等は、洗浄後に熱湯消毒
- 生鮮食品(野菜・果物など)は十分に洗浄
- 調理の前は石けんと流水で十分な手洗い  
(アルコール消毒は効きにくい)
- 手洗い後に使用するタオルは清潔なものを

### 二次感染の予防

- 感染者の便やおう吐物には接触しない
- おう吐物等の処理後は石けんと流水で十分な手洗い

### 「家庭でできるノロウイルス対策」

**家庭でできるノロウイルス対策**

普段からのノロウイルス対策

**手洗い** ノロウイルスを落とすのはあなの手！

必ずやる！

- ① 流水でよく洗う
- ② 石けんを泡立て、手全体を洗い流す
- ③ 流水でよくすすぐ
- ④ タオルでよく拭く

ここが大切！

- ① 流水でよく洗う
- ② 石けんを泡立て、手全体を洗い流す
- ③ 流水でよくすすぐ
- ④ タオルでよく拭く

**食事** 特に子供やお年寄りなど抵抗力の弱い方は、汚染のおそれのある二枚貝等の食品には、中心部まで十分火を通す。

自分や家族がノロウイルスに感染したかもしれないと思ったら

**おう吐物の処理** おう吐物には大量のノロウイルス！

- おう吐物処理セットは事前に準備
- 処理の手順を覚えておく

**消毒**

- キッチン 調理器具、お盆、スポンジ等熱湯で消毒(10分以上)または48.02%消毒薬に浸す。
- トイレ トイレノズル、便器のパー、便座等48.02%消毒薬を塗したペーパータオルで拭く。
- 衣類・リネン類 ウィルスが飛び散らないように静かにもみ洗いし、熱湯洗濯(85℃ 10分以上)または48.02%消毒薬に浸す。

**風呂** 手洗いをしている人は、バスドアの取っ手、風呂の水は取り替え、毎日換水する。

**調理** 手や調理器具等から食品を落とさないため、手や調理器具、食品の消毒を徹底する。

【食中毒ポスター・リーフレット等リンク先】

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/pamphlet2/pamphlet.html>